

Vale/PT Vale Indonesia の主要株主の皆様へ

**ソロワコ・ニッケル開発事業地周辺における  
現地コミュニティの基本的な人権を保護するための措置を  
PT Vale Indonesia が講じるよう、迅速かつ適切な対応を求める要請書**

私たちは、インドネシアの南スラウェシ州東ルウ県における PT Vale Indonesia (PTVI) のソロワコ・ニッケル開発事業（以下、本事業）の影響を受けている現地コミュニティとともに、環境・社会・人権問題に取り組んでいる市民社会団体です。本日、私たちは、PTVI の親会社であるヴァーレ社の主要な株主のひとつである貴殿に対し、以下に述べるような本事業における人権侵害に加担することを自ら回避できるよう、本要請書を送付いたします。

PT International Nickel Indonesia (PT INCO) によるニッケル開発がソロワコで始まって以降、50年以上にわたり、その広大なコンセッション地域（70,566ヘクタール）の開発現場では、先住民族や農家、漁師、女性など現地コミュニティの人びとが、さまざまな問題に直面してきました。近年、脱炭素社会の実現に向けた取組みの一環でバッテリー材料の需要が高まる中、ソロワコでも、新規の製錬所の建設計画<sup>1</sup>から鉱山の探査・拡張まで、その開発圧力はむしろ強まっており、現地コミュニティの抱える懸念・問題も絶えることはありません。

まず、ソロワコ鉱山周辺地域の住民にとって重要な生計手段の一つである農地が、ニッケル鉱山の拡張の度に奪われてきました。コンセッション地域内では、PTVI の採掘地域が農地にまで拡張される場合、農家は立退かざるを得ませんでした。補償金が支払われても、耕作につき込んだ労働力や肥料等の必要経費を考慮すれば、決して十分な額ではなかったとの報告もあります。そもそも、金銭補償は使い切ってしまうと終わりのため、持続可能な措置とは到底言えません。また、まったく補償がないケースも含め、補償水準や内容が一律でないためにコミュニティの分断を招いている例も報告されています。

PTVI のコンセッション地域と農地が重なっているが故に、PTVI の土地から立ち退くよう、警察や警備員から農家に対して脅し・嫌がらせなども起きています。農家は、汗水流して耕してきた農地をいつ奪われるか戦々恐々としながら耕作を続けているのが現状です。

現在、PTVI が探査活動を行っているタナマリア鉱区については、適切な住民協議もないまま進められており、農家らから**探査の中止を求める声**があがっています。ソロワコ周辺では、この20年の間、胡椒栽培が莫大な恩恵をコミュニティにもたらしてきました。女性を含む胡椒農家や胡椒関連の経済活動従事者らにとって、タナマリア鉱区での鉱山拡張は、生活を脅かす重大な懸念事項です。農業を続けられるよう、**こうした農地をPTVIのコンセッション地域から外してもらいたいというのが、農家の切なる願い**です。

---

1

<https://www.vale.com/documents/44618/1438416/PT+Vale+and+Huayou+Show+Sustainability+Commitment+by+Building+a+new+HPAL+Plant+for+Limonite+Nickel+Ore+in+Luwu+Timur.pdf/3f0a54cf-12f6-845e-94e2-3950d845d998?version=1.0&t=1668006561928>

また、ソロワコ鉱山周辺の環境汚染も現地コミュニティの生活を脅かしてきました。2023年2月には、トウティ郡アスリ村のコミュニティが水源として使っていた近くの湧水が、雨天時に茶色く濁ってしまい、乾季には水源自体が枯れてしまう日も出てきたため、住民がPTVIの迅速な対応を求め、抗議の声をあげました。コミュニティの証言によれば、そうした水の問題は、近隣で採掘活動が始まる前は起きなかったとのこと。さらに、2022年10月にFoE JapanとWALHI南スラウェシが行った水質調査では、この水源から、世界保健機関（WHO）飲料水水質ガイドラインの基準値（0.05 mg/L）<sup>2</sup>やインドネシア政府の飲料水水質基準（0.05 mg/L）<sup>3</sup>を超過する六価クロム負荷が検出されています。PTVIは、コミュニティの苦情から5ヶ月以上経った現在も、清潔で安全な水をコミュニティに提供できていません。



アスリ村のコミュニティの水源及び住宅のすぐ上で拡張を続けるPTVIの採掘活動（写真：2022年7月）



アスリ村のコミュニティが利用している水の六価クロム簡易検知管による検査結果（0.05 mg/L）（写真：2022年10月23日）



PTVIの採掘活動の影響を受けるアスリ村のコミュニティの水源の一つ（20家族が利用）（写真：2023年1月10日）



アスリ村のコミュニティは、他の水源がないため、家庭用に汚染された湧水を少しずつ貯めて利用していた（写真：2023年1月10日）

探査活動が進められている上述のタナマリア鉱区では、同地域の胡椒農家によれば、少なくとも数十の湧水があるとされており、コミュニティだけでなく、そこに暮らす動植物を含む、熱帯雨林地域の生態系への影響も懸念されています。

<sup>2</sup> <https://www.who.int/teams/environment-climate-change-and-health/water-sanitation-and-health/water-safety-and-quality/drinking-water-quality-guidelines>

<sup>3</sup> [https://jdih.setkab.go.id/PUUdoc/176367/Lampiran\\_VI\\_Salinan\\_PP\\_Nomor\\_22\\_Tahun\\_2021.pdf](https://jdih.setkab.go.id/PUUdoc/176367/Lampiran_VI_Salinan_PP_Nomor_22_Tahun_2021.pdf)

清潔かつ安全な水を享受することは、女性や子どもを含む現地コミュニティの基本的人権の一つです。発がん性、肝臓障害、皮膚疾患等が指摘される毒性の高い重金属である六価クロムによる事業地周辺の環境汚染については、長期的に地域住民の健康被害等を未然に防止する観点重要です。

さらに、自分たちの生活を守るため、PTVIに対応の改善を求めて声をあげてきた現地コミュニティの「表現の自由」が抑圧されてきたことも看過できない重要な問題です。

2022年3月には、先住民族の権利の尊重、清潔な水へのアクセス、農地に対する権利の尊重、青年層への雇用機会の確保をPTVIに求めた住民らが抗議活動を行った際、7名が不当に逮捕・勾留され、その家族も含め、経済的かつ精神的な負担を強いられました。2023年2月には、上述のアスリ村のコミュニティの抗議に対し、警察や諜報機関などの地元当局が住民のリーダーを呼び出して抗議行動を止めるよう指示するなど、介入や脅迫があったため、コミュニティは抗議行動を中止せざるを得ませんでした。

同様に、2023年6月と7月には、PTVIにタナマリア鉱区での探査を中止するよう求めていた農民たちが、現地で軍と重装備の警察官の存在を確認しています。これは、PTVIが抑圧的な方法を好み、適切な協議によってコミュニティから同意を得るプロセスを一切無視していることを明確に示しています。<sup>45</sup>このような現地レベルでの抑圧的な状況に続いて、インドネシア地方軍管区司令部は、農民を支援してきたWALHI南スラウェシの事務所（マカッサル）を訪問し、尋問さえ行いました。

このように先住民族を含む住民の「表現の自由」が著しく侵害されている状況はあってはならないことです。ソロワコにおけるニッケル開発事業に出資しているヴァーレ乃至事業実施者PTVIの株主である貴殿も、こうした人権侵害への加担を回避するための適切な対応が求められています。

以上のことから、私たちは貴社に対し、PTVIが以下の措置を確実に講じるよう、迅速かつ適切な対応をとることを要請します。

1. タナマリア鉱区全体を伐採権から除外すること。なぜなら、タナマリア鉱区は、現地コミュニティが生活の糧としている農地と、スラウェシ固有の動植物が生息する熱帯雨林の生態系・景観から構成されているからである；
2. 現地コミュニティが生活の糧としている農地及び十分な緩衝地帯を採掘対象地域から除外すること（探査中のタナマリア鉱区を含む）。
3. 現地コミュニティの清潔かつ安全な水のアクセスを確保するための適切な救済措置を直ちに講じること。また、水のアクセスに係る問題の再発防止計画を立て、それを公表すること。
4. 将来にわたり有害物質による環境汚染を防ぐため、生態系に不可欠な場所（森林や河川、現地コミュニティの水源地の上流など）でのニッケル採掘活動を停止すること。
5. 河川やコミュニティの水源地域の環境修復を行うこと。

<sup>4</sup> <https://www.journaltelegraf.com/2023/06/tuntutan-petani-dan-perempuan-merica.html>

<sup>5</sup> <https://www.indeksmedia.id/2023/07/26/petani-dan-perempuan-ketakutan-walhi-sulsel-desak-pt-vale-indonesia-hentikan-militerisasi-di-blok-tanamalia-luwu-timur/>

6. 清潔かつ安全な水へのアクセスを含む、健康や生活に関する現地コミュニティの人権を尊重すること。
7. ニッケル開発の影響を受ける現地コミュニティの表現の自由を尊重すること。

ソロワコ・ニッケル開発の影響を受ける現地コミュニティが、農業を続けることができ、健康な生活を送ることができ、反対や懸念を自由に表明することができること——それはすべて基本的人権です。「国連ビジネスと人権指導原則」に基づく貴社の誠意ある対応を期待します。

(以下、23 カ国 104 団体署名)

#### **呼びかけ団体**

WALHI South Sulawesi  
Wahana Lingkungan Hidup Indonesia (WALHI / FoE Indonesia)  
国際環境 NGO FoE Japan  
アジア太平洋資料センター (PARC)

#### **賛同団体**

(略)

#### **【添付資料】**

- [ロエハ／マハロナ・ラヤ地域胡椒農民団体による声明文](#)：「声明文 ロエハ・ラヤ地域のコミュニティ（農民および女性）は東ルウ県トウティ郡タナマリア鉱区における PT ヴァーレインドネシアの探査・拡張活動を拒否する」（2023年7月24日）

#### **【連絡先】**

WALHI South Sulawesi (Muhammad Al Amin, Executive Director)  
Add: JL. Aroepala, Kompleks Permata Hijau Lestari Blok Q1, No.8, Rappocini, Kota Makassar, Sulawesi Selatan 90221  
Email: muhammad.al.amien@gmail.com / walhisulsel@gmail.com  
Tel: +62-8229-3939-591

国際環境 NGO FoE Japan（担当：開発金融と環境チーム 波多江）  
住所：1-21-9 Komone, Itabashi-ku, Tokyo, Japan 173-0037  
Email: [hatae@foejapan.org](mailto:hatae@foejapan.org)  
Tel: +81 3 6909 5983